

2 第2期行動計画における目標達成状況

健全化計画では、恵み豊かな印旛沼・流域の再生に向けて、5つの目標を掲げています。この目標の達成状況を評価するための評価指標と目標値を設定し、目標の達成状況を評価することとしています。

第2期行動計画の計画期間終了時である2020（令和2）年度における9つの評価指標の目標値達成状況と、それらを踏まえた5つの目標の達成状況は、以下のとおりです。

5つの目標の達成状況

（第2期の期間：2016（平成28）年～2020（令和2）年度）

5つの目標	達成状況
良質な飲み水の源 印旛沼・流域	トリハロメタン生成能、2MIBは年により変動はありますが、概ね横ばい傾向であり、目標は達成されていません。水道に適した水質を実現するためには、より一層の努力が必要です。
遊び、泳げる 印旛沼・流域	水の透明度（年平均値）は計画の1年目から達成しており、水質（クロロフィルa、COD）も計画の最終年度には目標を達成しました。一方、まだ目標を達成していない地点がある、アオコは特定の場所では継続して確認されているなど、「遊び、泳げる」印旛沼・流域の実現に向けて、継続した努力が必要です。
ふるさとの 生き物はぐくむ 印旛沼・流域	特定外来生物（ナガエツルノゲイトウ等）の駆除や植生帯整備による水生植物群落の保全・再生など、ふるさとの生き物を保全する取組が進められています。また、流域では、里山の多様な機能に注目した新しい里山の保全・再生の取組が開始されるなど、ふるさとの生き物をはぐくむ取組が実施されています。
水害に強い 印旛沼・流域	河川改修等が進んだことにより、治水安全度は向上しています。一方で、2019（令和元）年10月の大雨では、堤防からの漏水や流入河川での氾濫等による浸水被害が発生しており、水害に強い地域づくりのため、流域での対策も含めた総合的な防災・減災対策の推進が求められています。
人が集い、 人と共生する 印旛沼・流域	大雨による環境・体験フェアの中止や新型コロナウイルス感染症に伴うイベント中止など、従来の取組が困難な状況となっています。そうした中でも印旛沼周辺利用者は増加するなど、「人が集い、人と共生」する印旛沼の実現に向けて取組が実施されています。

評価指標の達成状況

評価指標と第2期目標値		達成状況
①水質	★クロロフィル a : 年平均 110µg/L 以下 ★COD : 年平均 10mg/L 以下	月2回実施されている水質調査の年平均値は、CODは、西印旛沼、北印旛沼とも毎年変動し、目標値より高い値での推移でしたが、2011(平成23)年度よりほぼ横ばいの傾向です。クロロフィル a は、毎年変動が見られましたが、2020(令和2)年度では西印旛沼、北印旛沼ともに目標を達成しています。
②アオコ	★アオコの発生が目立たなくなる	アオコは夏季に複数箇所継続して確認されました。アオコレベルは2~4程度で、第2期中ではほぼ同程度でしたが、発生箇所はやや減少しました。
③清澄性	★透明度が改善する : 0.4 m 程度	西印旛沼での透明度は、各観測回で変動はありますが、第2期期間中の年度平均値は、目標(0.4m)を上回りました。
④におい	★臭気が少なくなる	西印旛沼の水を取水している印旛取水場では、第2期期間中においては腐敗臭は確認されず、カビ臭や青草臭、土臭の発生は以前より減少しましたが、藻臭および下水臭は以前と同程度の発生状況でした。
⑤水道に適した水質	★2-MIB、トリハロメタン生成能が改善する	2-MIB、トリハロメタン生成能の年最大値は、年により変動はありますが、横ばい傾向です。
⑥利用者数	★印旛沼・流域に訪れる人が増加する	印旛沼施設周辺の利用者は2019(令和元)年度までは年毎に変動がありましたが、利用者数はこれまでと同程度またそれ以上でした。2020(令和2)年度はコロナ禍により減少しました。
⑦湧水	★注目地点での湧水が枯渇しない ★低水流量が増加する	加賀清水湧水では、2020(令和2)年度に少雨が継続し枯渇が発生しましたが、その他の年度では枯渇は発生しませんでした。
⑧生き物	★特定外来生物の被害を軽減する ★水生植物群落を保全・再生する	ナガエツルノゲイトウの駆除活動等、排水機場での運転障害等の軽減に向けて取組が実施されている一方、いまだ群落の繁茂が確認されており、治水リスクは依然として残っています。水生植物群落は、系統維持拠点や新たな植生帯整備により保全・再生が進められていますが、一部の整備箇所では単調な植生に遷移しつつあるなど多様な水生植物群落の維持管理が必要となっています。
⑨水害	★治水安全度が向上する	河川改修が進められ、治水安全度は向上していますが、2019(令和元)年の10月25日の大雨では、鹿島川、高崎川や印旛沼の一部で浸水被害や堤防からの漏水が発生しました。

コラム：水循環の健全性に関する評価指標・評価手法

内閣官房水循環政策本部事務局による「水循環の健全性に関する評価指標・評価手法の検討」にあたって、2020(令和2)年度に印旛沼・流域を対象に実証のための試行的な評価が実施されました。

検討の背景

- 水循環の現状の評価や各種施策の効果の評価については、評価指標や評価手法が標準化されていない中で、各地域において、試行錯誤的に取り組まれている。
- 流域において実効性の高いマネジメントを行うためには、水循環の現状や課題を「見える化」することにより、課題に対して施策がもたらす効果等について定量的な評価を行うことが効果的。

評価指標・評価手法の確立

水循環の評価指標・評価手法原案の作成

- ・既存の評価指標・評価手法を調査
- ・原案を作成

印旛沼
で実施

水循環の評価指標・評価手法原案の作成

- ・モデル地域で実証
- ・有効性・妥当性を評価

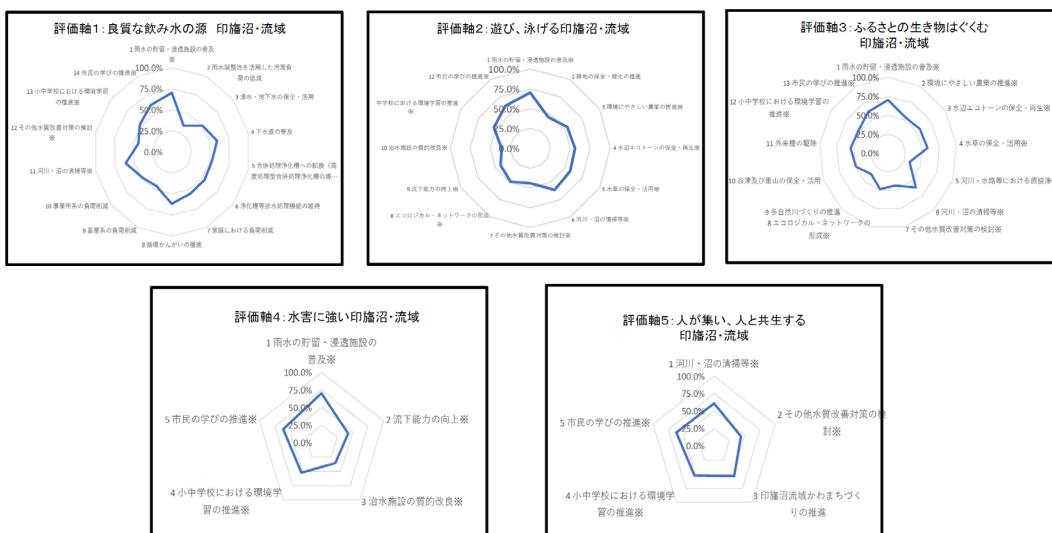
水循環の評価指標・評価手法原案の作成

- ・既存の評価指標・評価手法を調査
- ・原案を作成

期待される効果

流域における水循環の現状や施策効果を「見える化」する評価指標・評価手法の確立により、**流域マネジメントの質の向上を支援**

▼ 試行評価の結果例（目標に対する達成状況）



今後、水循環の評価指標・評価手法が作成・公表された際は、第3期行動計画のレビュー等、印旛沼・流域における水循環の現状や、水循環健全化の取組効果の評価に活用していきます。

